

S G H国内フィールドワーク（医療班）

①長崎大学医学部（地域包括ケア）



8月1日（火）に64名の生徒が長崎大学医学部を訪問し永田康浩 教授による地域包括ケア講義に参加しました。医療に携わる職業についてのディスカッションのあと、腹部超音波検査や聴診など実践的な医療の実習も行われ、生徒たちにとって普段経験できない貴重な時間になりました。長崎の医学の歴史をはじめ「医学」と「医療」は異なるということ、医学情報量が急速に増加していること、そして医療は病院だけではなく地域全体で関わっていくことが大切であるということを学びました。今後の研究に活かすだけでなく、人の役に立ちたいと思う生徒も増えた良い体験となりました。



②長崎大学熱帯医学研究所

8月1日（火）に25名の生徒が長崎大学熱帯医学研究所を訪問しました。最初の全体会では3人の先生方から、なぜ研究者になったのか、ご自分の生い立ちから現在までの足跡を教えてくださいました。次に「ウイルス」が専門の久保嘉直准教授、「蚊」が専門の砂原俊彦助教、「寄生虫」が専門の加藤健太郎助教と3つのグループに分かれて、生徒たちのさまざまな研究内容に関わることから具体的な実験の方法など、多岐に渡った質問に一つ一つ丁寧に答えていただき、生徒たちも研究に対する意欲がますます高まったようです。熱帯医学ミュージアムにおいては、熱帯病に関する概説パネル、寄生虫・細菌・ウイルス・病原媒介昆虫・危険動物などの標本について詳しく解説していただきました。さらに蚊についての映像を視聴し、蚊の生態を深く知ることができました。また設置が検討されているBSL（BioSafetyLevel）-4施設の必要性や安全対策についてのお話も伺いました。

